

神戸関電ビル完成によせて

高部 泰

〈関西電力株式会社神戸支店長〉



「いよいよ出来上がりましたな。それにしても高い塔が乗ってますな」、「面白い形をしていますな。あの塔は一体何に使うのですか」…。

先の震災で建て替えを余儀なくされ、このほど竣工した「神戸関電ビル」に關してよくお受けする質問です。

震災直後の応急復旧には、社内はもとより全国の電力会社、工事会社から六千数百名に上る応援を受け、一週間後の一月二十三日には送電可能なお客さますべてに電氣をお送りすることができ、街に灯りを取り戻すことができました。

マンションの廊下に、街灯に灯りが戻った瞬間、思わずわき上がった住民の皆さまの拍手が未だに忘れられないと当時を振り返る関係者も数多くいます。

応急復旧のあと、被害を受けた電力設備の本格復旧を優先、その一巡を待って、ビルの建て替え工事に着手、おかげさまで、このほどようやく新しいビルが完成いたしました。

冒頭の話に戻りますが、私どもにとつては、質の良い電氣をお客さま方に安定してお送りすることが基本使命です。「質」とは「電圧、周波数」が一定

の値に維持されていることです。時々刻々変動する地域ごとの需要量に見合つて同量の電氣をお送りするため、ビル内に設けた「給電所」から主要な変電所などに無線で指令を送り、電氣の流れをコントロールしています。この無線通信には高い信頼度が要求されます。このため、必要な高さ、ビル本体、塔体の耐震性能を確保したうえで、景観にも配慮した結果、このような形になったわけです。

あれから五年、当地の復興も一巡し、これからは質的な面の充実と新たな再生、発展に向けての取り組みが展開されようとしておりますが、過去、幾度か天災、戦災に見舞われながら都度立派に立ち上がり、新たな発展を遂げてきた神戸、今は苦しくとも五年後、十年後に大きな希望を託したいと思っています。

新しいビルには、省エネ、電氣の効率利用の面で様々な工夫をとり入れ、ご専門の方々のご参考に供したいと考えております。また、市民の皆さま方の文化活動にご利用いただけるよう、ギャラリーも設けております。皆さまのお越しをお待ちしております。

アリスの健康靴 - 足に合った正しい靴で快適歩行をサポート



現代生活の中で、私達の足には大きな負担がかかっています。これからの足の悩みを予防されたい方にも、既に、足の痛みに悩まれている方にも、足に合った正しい靴をはかれることをお勧めします。株式会社アリスは、最新の整形外科水準に基づいて作られたドイツ製健康靴を中心に、多くのブランドを取りそろえ、皆さまの快適で健康な生活をサポートすることに全力を注いでいます。月に一度、無料のクリニックデイも設けておりますので、お問い合わせください。経験豊かなスタッフと専門技術を持つ整形外科靴マイスターと共に、皆さまのご来店をお待ち致しております。



代表取締役社長 アリス・クリスチャンス

地球を歩く Step Globally 自然に歩く Step Naturally 快適に歩く Step Comfortably



KOBECOCO
2000

小谷 泰子

時間と空間の一点で

YASUKO KOTANI

〈写真家〉

多重露光を用いた画面構成、裸体の自画像を通して、自らの内面や感情を表現し続けている写真家の小谷泰子さん。震災後三年間にわたり撮影した作品群「Destruction in Blue」は、自らも体験した地震の恐怖、破壊を直接的に表現しているものだ。

藻がからみつく深い海の底、濃いブルーの空間に等身大の彼女が、さまざまなポーズで重なりあい、心の闇を無言の表情で訴えかけてくる。「自画像を撮るという極めて個人的な試みだけれど、同時代を生きる人々との接点になれば」と話す。

「日々とまっすぐにいく感情―ある時点での感情を吐き出したくて」カメラに向かう。時間と空間のある特定の一点に身をおき、カメラと向き合つうち、そこはいつしか彼女の「聖なる領域」となる。母親の胎内の記憶を呼び覚ます「羊水」のような心地よい空間で、自らを増殖させるように何度もシャッターをきる。カメラと自分を繋ぐ一〇mの延長リリースが「へその緒」の役割となり、セルフタイマーでは決して写すことのできない「感情の高まり」を捕らえるのだ。

撮影が終了し現像するまでの、僅かな時間が経過した後の自分自身との「再会」は、「いつも怖いと思う」。しかし、それ以上に「自分自身と見詰め合いたい、過去の自分を振り返って越えたい」。そこには確かな「自己の超越」がある。「ひとつひとつの作品は一生の断片にすぎず、死を迎える直前の一枚で作品が完成する。私にとって撮るという営みが生きることと同時に進行しているんです」

芦屋市立美術館にて 撮影／池田年夫



KOBECCO
2000

アレックス楊

神戸から世界へ

ALEX YANG

〈アレックスエンタープライズ株式会社
代表取締役〉



アレックスプロコスメコローレにて 撮影／米田英男

「『勇気をもってダサくしろ』とスタッフには言いますね」。美容業界の先端を行くトップの口から意外な言葉がもれた。

神戸で生まれ育ち、二十三歳でヘアスタイリストの勉強のため、ニューヨークに旅立った。帰国して美容室アレックスの一号店を六甲に出したのが昭和四十九年。現在はニューヨーク、台湾を含め、十四店舗を展開する。東京進出の誘いもあったが「世界から見れば同じ日本。それならば、ここから世界に発信したい」。神戸が好きで、この街独自の文化の発展をも願っている。個性のある点の集まりが線となり、その街の特性が自然に創り出されていくこと、それが文化、まちづくりの原点だと考える。

クリエイティブな感性は美容業界にとどまらず、昨年末には古くからあった映画館を同じコンセプトをもった同志たちとチャイニーズレストランとして蘇らせた。「同世代にはノスタルジーを、若い世代には空間のおもしろさを感じてほしい。新幹線は便利だが、列車の旅もおもしろいでしょ」

冒頭の言葉は流行りのスタイルを追いかけ、それがベストと思いがちなヘアスタイリストにもっと個人の個性を大切にしろという意味を含む。世の中は前はかり進みたがるが、バック&フォワード少し進んだら元をふり返る―旧き良き物を見直すこと。それが結果として前進につながるという。

今後は装飾的な美容だけではなく、食・住など内面的な豊かさに視点を置いた空間づくりを手掛けていくつもりだ。夢が尽きることはない。

〈前田〉



↑第26回 KOBE FASHION CONTEST' 99

新たな個性が世界へ

2月6日、神戸ファッション美術館オルビスホールにて第26回神戸ファッションコンテスト' 99の最終審査会が開かれた。写真上のユニークなマタニティファッションなどで1次審査通過者20名の中から選ばれた5名がフランス、イギリス、イタリアへの留学のチャンスをつかんだ。写真左下はショー前日に提携した留学先の教授のみさん。当日は留学地のパリやロンドンをインターネットで結び、ライブ中継が行われた。受賞者を囲んで（写真左上）



K O B E コウベスナップ S N A P



↑南和恵さん個展開催

画家南和恵さんの個展が、神戸二紀展のサンバル賞受賞を記念して、サンバルのギャラリーで2月4日から1週間開催。花の振るような神戸の街の風景画はさわやか。（写真は南さんを囲んで）



↑700人のOH, HAPPY DAY!

2月12日東灘区のうはらホールにて東神戸教会を拠点とするゴスペルクワイア「KOBE Mass Choir」のコンサートが開かれた。この企画は東灘区が募集した「夢実行コンクール」の優秀企画賞が実現に至ったもの。被災地神戸への励ましの歌を歌っているゴスペルシンガー岡崎ひろみさんをゲストに迎え、700人の大きな歌声で会場が一つになった

↑神戸二紀会 今年も力作が勢揃い

第44回神戸二紀展が兵庫県県民会館で開催。先立ち、2月8日授賞式と懇親会が県民会館10F「福の間」でとり行なわれた

神戸二紀展表彰式・懇親会





←ウェスティンホテルオープン
ウェスティンホテルロビーにて画家の
大石可久也さん夫妻（写真左）。
3月6日披露パーティーにてインテ
リア・デザイナーのマリアン・ガウ
アーさん、ウェスティンホテル総支
配人丸山裕さんを囲んで（写真下）



←花ざかり、親子で舞う
兵庫県日本舞踊協会の春
の祭典が3月4日こくさ
いホールで開催された。
花ざかりを踊った花柳吉
豊師と花柳吉小曼さんが
楽屋にて。大和三千世、
大和礼子さんと



←ふれあいの祭典に幕
第11回兵庫のまつりふれあいの祭典閉会のつどい
が3月10日兵庫県公館で開かれた。写真は、祭典を
盛り上げたことにより「ふれあい大賞」を受賞した、
明石ジャズダンスファクトリーJr. 他11団体の代
表の方々

←ミレニアムひなまつりファッションショー
藤井美智子さんのファッションショー、ミレ
ニアム2000ひなまつりが、3月4日神
戸ポートピアホテルで開催された（写真左は藤
井美智子さんを囲んで）



K O B E コウベスナップ S N A P



←ポント・ヘルレ2000 神戸クラシックカーパレード
淡路花博開催記念として、今年も六甲アイランドに世界の名車110台が集結した。各車のドライバーたちは、まるで
子供のように眼を輝かせてハンドルの握っていた。これぞ大人の遊び！



←水澤節子さんを祝う会
水澤節子さんが、兵庫県の文化奨励賞を受賞され、お祝い会が元町の月
堂ホールで3月4日の夜開かれた。きもの姿の愛らしい水澤さんを囲んで



←穴門商店街50周年
3月10日、ホテルオークラ神戸で元町穴門商店街
50周年のパーティーが開かれた。関一雄会長は
「穴門は、元町・南京町・大丸に通じる『花道』
と思つて、商店づくりをした」とあいさつ

震災から
五年ぶりに日本一！

V 神戸製鋼 ラグビー部

写真提供/デイリースポーツ社



増保輝則キャプテンを神戸フィフティーンが胸上げ



増保キャプテンが持ち前のスピードを生かして突進！



長身ラーセンがボールをキャッチ

WE ARE BACK

日本一を決めた神戸製鋼フィフティーンの胸に刻み込まれた文字。3月10日、花園ラグビー場。神戸がトヨタ自動車をやぶり、通算8度目の日本一に返り咲いた。

今年の神戸の強さは際立っていた。増保、元木、吉田、伊藤、大畑、日本代表経験者をキラ星のごとくそろえる

ワールド善戦およばず。
神戸が神戸対決を制す！

全国社会人ラグビーの決勝は、神戸とワイルドの神戸勢の対決に。試合会場となった花園ラグビー場には、赤（神戸）と青（ワイルド）の旗をもった応援団がびっしり。両チームの気迫のこもったプレーに一喜一憂した。終了間際に、ワイルドが立て続けにトライを決め、神戸を追い上げたがあと一歩及ばず。神戸が5年ぶり8度目の社会人日本一に輝いた。



ワイルドの猛攻に耐えてゲーム終了。神戸5年ぶりの社会人制覇！



WE ARE BACK。神鋼が日本一に戻ってきた

神鋼フイフティーンの力が発揮されたのは、全国社会人リーグに入ってから。昨年日本一の東芝府中戦を42対0の大差で下し、決勝では同じ神戸に本拠地をもつワールドと対戦。震災後、神戸っ子が待ちに待ったラグビーの復活が、神戸対決という最高の形で訪れた。ワールドにとっては昭和59年の創部以来、初の決勝進出。試合は35対26と神鋼が勝ったが、ワールドも終了間際に立て続けにトライを奪い、スタンドを沸かせた。畑崎廣敏ワールド社主も「うちは神鋼ほどタレントはいないが、努力して互角の戦いを演じた。トライ数も4対4。今日の戦いはワールドの企業姿勢を表しているようだった」。

神鋼の強さは、ラグビー日本一を決定する日本選手権でも際立っていた。決勝では、宿敵トヨタ自動車を相手に49対20で大勝した。増保輝則キャプテンは「きついときにきついプレーを選択したことが勝利につながった。チーム一丸となって勝つことだけを目標にできた」とふり返った。

神鋼の今年の戦いぶりを見ていると平尾、大八木、林が7連覇を築いた第一期黄金時代に勝るとも劣らない。この日本一は第二期黄金時代のスタートのよう。通算8度目の日本一は最多タイ記録。この記録をどこまでものびしてくるのだろうか。



全国社会人ラグビーの決勝は神戸対決。神鋼とワールドの闘志がぶつかる



神鋼の司令塔ミラー（左）にワールド遠藤



ARTIST
INTERVIEW!

「夢と懐かしさを 歌に託して」

中島啓江<歌手>

ジャンルにこだわることなく、名曲の数々を
歌い継いでいる中島啓江。
彼女の歌に託している思い、亡き母の思い出など、
神戸公演の前に語っていただきました。

**何が飛び出すか
お楽しみ**

—今年もまた神戸で「夢で逢いましょう」が開かれますね。

今回で四回目を迎え、もう私のライフワークですね。去年のステージが終わってから、すぐに今回のことが楽しみでしたから（笑）。

—どんなステージになるのですか。

今回はシックに、だけどアレンジに凝って、前半は昭和初期の歌で綴り、アジア、特に中国に思いを馳せて情緒いっぱいステージにする予定です。上海ジャズなど楽しいアレンジを考えています。

—ステージの企画もされるのですか。

コンサートの選曲はもちろん、構成、演出全て自分でやります。衣装も曲のイメージを中心に考え、一部で三回、二部で二回は着替えます。二部の最初は、燕尾服でドイツの指揮者っぽくバンドマンの縦笛を指揮します。この楽器は誰でも一度は吹いたことのある懐かしい楽器ですよ。ね。見に来ていただいたお客さんに、どこか懐かしさを感じてもらいたくって、見た目でも郷愁を感じる素材をステージにはいつも取り入れています。

—歌のために何か注意されていますか。

食べ物や飲み物を特別に制限することはありません。ただ、本番前に

は魚は食べないようにしています。骨が刺さったら困るでしょ（笑）。また、レッスンだけではなく、いろいろなことをやってみるのが大切だと思っています。絵を描くこと、本を書くこと、人と出会うこと、全ての経験が歌うためにプラスになっていますね。

—体調管理はどうされていますか。

毎月検診は受けています。健康で長生きしたいですから（笑）。ミュージカルをやると自然に痩せちゃうけど、ダイエットをしようとは思いません。それよりもカッコ良く太りたいですね。黒人のおばさんのように。私まで痩せちゃったら、太っていることが悪いというような世の中の間違った考えに負けちゃうでしょう。私を見て勇気を持ってくれる人たちのためにがんばらないと。ちなみに森公美子さんとはよく似てるように思われがちで、私が出てなくても彼女がテレビに出てたら私まで出てるように思われちゃうぐらい（笑）。仲はいいですよ。からだのジャンルが一緒ですから（笑）。

貧しくても心はリッチだった

—亡くなられたお母さんのことを書かれた本を出されましたね。

母とは姉妹みたいで、あまりにもおもしろい親子関係なので、他の人たちの親子関係も良くなってくれ

ばと思って書きました。昔から母の夢は私が歌手になること、それだけでした。そのために母は内職もしてくれました。十枚作って一円にもならない袋張りや花を作るんです。私も手伝いましたが、貧しさとか苦労は少しも感じませんでした。内職をしながら母と話をしたり、二人で野の草を摘んで、おひたしやお団子を作ることは本当に楽しく、人間として生きてるって感じがしていました。貧しくても心はリッチでした。

「じゃあね」でまた会える

—亡くなられてから、つらい時期が長かったと聞いています。

8月3日に亡くなって5日に告別式、そして6日にはもうコンサート舞台が待っていました。泣けちゃう歌が多くて、リハーサルは泣いてばかり。でも本番ではちゃんと歌いました。仕事ですから。本当は母が亡くなった時に歌は辞めようと思っただけです。目の前のお客さんに歌いながらも、母のために歌っているという思いが常にあったので。ひとつわかったのは、人の悲しみの深さは他の人には計り知れないこと。悲しんでいる時には「元氣だしなさい」と言われるよりも「悲しいね、悲しいね」って言うてもらったほうがいい。「いつまで泣いてるの、大丈夫だよ」なんて絶対言っちゃいけない。

ない。そう言われると余計に悲しくなるんですよ。
—そんな底から立ち直れたきっかけはあったのですか。

自暴自棄になっていた時に「あなたの歌で多くの人が励まされているのですよ」と言ってくれた人がいました。その言葉で目の前の曇りがとれたような気がしました。私よりもっと辛く、苦しんでいる人が世の中に大勢いるって思うことができました。それまでは自分だけが辛いつて思っていましたから。

—本のタイトル「じゃあね」の意味は。

「じゃあね」は母の口癖でした。本番前に楽屋から出て行く時に、母はいつも口をとがらしてちよつとすねてこう言っていました。この言葉には「じゃあね、またね」っていう決して終わじゃないんだっていう意味が入っています。

新しい時代に 良き歌を歌い継いで

—神戸の印象はいかがですか。

神戸はここ十年ほど毎年訪れています。震災の後はチャリティーコンサートで来ました。今回の公演を行う新神戸オリエンタル劇場はすごく好きな劇場です。舞台と客席が近く一体感があります。舞台から客席を見ても小さな灯りが点いてきれいなんです。

—これからの夢などありますか。
今年2000年は次の時代へジャンプするための準備の年だと思っています。21世紀だからと先走りでも新しいものを追いかけるだけではダメ。何が大切か、なくしかけているものを拾って来なきゃ。世の中が無茶苦茶だと迎えられなかった2000年ですから、改めて過去の人たちに感謝すべきですね。

日本は生きること必死になっていた時代があり、そこに流れていたメロディーがありました。そんな時代を生きてきた人たちには、今とちがえず平和な日本でゆつたりと聞いてほしい。若い人にもこんな曲があったんだと思ってもらいたい。私の仕事はいい歌をこれからの時代に残すために歌い継いでいくことだと思っています。そのためにこのステージ「夢で逢いましょう」はずっと続けていきたいですね。

【プロフィール】 なかじま・けいこ

鹿児島県出身。昭和音楽短期大学ディプロマコースオペラ専攻科修了。1979年藤原歌劇団入団。春平紀美女史、故・砂原美智子女史、マルチェラ・ゴヴォーニ女史らに師事。86年には初のソロコンサート「天高くオペラ肥ゆる秋」を開く。87年には宮本亜門のミュージカル「アイガットマーマン」に出演。95年の香港、97年のニューヨークと海外でもリサイタルを開く。舞台だけでなくテレビ、ラジオでもそのパーソナリティを生かし幅広く活躍中。著書に「今日も元氣だオペラが見たい」「放課後の音楽室」「じゃあね」など。

前神戸市長

宮崎辰雄さんを悼む

新野幸次郎

〈財団法人神戸都市問題研究所所長〉

去る2月22日、前の神戸市長の宮崎辰雄さんが亡くなられた。市長退任後も、財団法人神戸都市問題研究所を設立、自ら理事長として活躍された。同研究所所長で神戸大学名誉教授の新野幸次郎先生に追悼の一文をお願いした。なお、4月6日に市民葬が予定されている。



神戸市役所に在職五十二年、うち、四期十六年は助役、五期二十年は市長というような人は、今までもいなかったし、これからも恐らくないであろう。その宮崎辰雄さんが、とうとう八十八歳で逝かれた。

とりあげていうほどの肩書きをもない、普通の人でも、その友人や家族の間で語り継ぎたいと思うことが山ほどあるものである。それがこれだけの役割を果し実に澤山の方々と係わりをもつてこられた宮崎さんの場合、どれだけ多様なものになるかは想像を絶する。宮崎さんを悼むには、係わりをもたれた多数の方々の一冊の本になるほどの声を集めることが必要である。そのことを了解されたうえで、私の拙文を許していただきたい。

行政マンとしての宮崎さんは、何よりもその都市経営に複式簿記的視点を導入した点で獨創性を発揮した。すなわち、従来の公共投資は、その設備の減価償却費、継続的運営のための人的物的経費等々を必ずしも十分計慮せず、ハードとしての設備がどれだけのお金があれば建設できるかで決められてきた。それを宮崎さんは、当初から今日要望されるようになっていく費用便益方式で決定しようとしてきた。また、都市開発に最近やっと注目されだ

したPFI（これまで公的部門が行ってきたプロジェクトの建設や運営を民間に委ねること）も導入していたし、地方公共団体では前例のなかった外債を発行して費用の極少化も図った。さらには、公的財政の単年度主義による限界を克服するために、第三セクターをいくつか設立し、そこでの収益でつくられた基金を景気変動の調整手段として利用した。こうした都市経営の卓越した独創性は、今日でも多くの公共経済学者が認める通りである。

しかし、その宮崎さんも、現行の中央集権制度の壁は破ることができなかった。すなわち、戦前および戦争直後の神戸経済は、横浜と名古屋のそれとほとんど同列に並ぶ水準であった。ところが、戦時中の統制経済と戦後の産業構造の激変のなかで三十年代に入ると神戸経済は完全に立ち遅れていった。川鉄は千葉と水島に転出し、神鋼も加古川に、川重もまた坂出にその拠点を移していき、本社はすべて事実上東京に移っていった。現行の地方税制の下で市民所得、したがって、また市民福祉の向上を図ろうとすると、市内での生産所得の増大を図る、すなわち、いわゆる開発を進める以外にない。その結果、神戸経済は巨大民間活力の欠如した中で、行政主導型の経済発展に

頼らざるをえなくなった。

今日でも、北海道や沖縄の経済は、それぞれ開発庁という国家依存の体制になってしまつて民間活力が希薄化してしまつたといわれる。大企業のリーダーシップと活力が希薄になった神戸で、いかにして市内生産所得を増大させ、民間活力を強化してゆくかが、地方分権ないし地方主権の確立とともに残された課題となった。自分のやり方の限界を自覚している人が、本当のリーダーであるといわれる。宮崎さんは、この限界を自覚しながら苦闘した。

かつて、宮崎さんは、幼くしてお母さんを失つた時から、弱いものの味方になろうと考えるようになったと話しておられた。神戸市が全国で初めて開学した神戸市婦人大学は、その設立に協力した多くの人々の力もあったが、宮崎さんのこの気持ちを示す輝かしい業績の一つであった。いくつかの都市で同じような大学をつくらうとした企てもあり、東京都でもその試みがなされたが、実現しなかった。神戸市の婦人団体が十億円の市債を引き受けるという快挙をとった背景にはこうした配慮もあった。

弱いものの味方といえば、神戸市の消費者保護に関連した諸施策は、のちに、国の消費者保護基本法成立の契機



ポートピア'81の開会式 昭和56年3月19日



天津市友好訪問団歓迎会 昭和53年9月相楽園にて

となり、神戸市の主催した消費者会議は、この問題を担当する経済企画庁の主催する会議よりも稔り多いといわれるものに発展していった。宮崎さんが全国に先駆けて制定した市民福祉条例、その中に独立した組織として作られた市民福祉調整委員会、および、そうした意向の集大成として自ら村長となった「しあわせの村」は高齢化社会を迎えつつあるわが国全体の福祉対応の一つの象徴となるものとなった。

誰でも笑顔は美しい。しかし、はにかみ屋の宮崎さんの笑顔は格別な味をもっていた。宮崎さんは、ほんものを見出そうとして、日本を代表する各分野の人々と会い、自分のやり方についての意見を聞くのを楽しみにしていた。また、あれだけ永い間最高責任者の地位に立ちながら、率直な批評を聞く耳をもち、それをしてくれる友人をもち続けた。

宮崎さんは不幸にして市長を辞めて間もなく、車椅子の生活を余儀なくされ、自らが弱い人として社会を見つめるようになった。宮崎さんは震災後、一部の人の批判も受けることになったがそれに正面切つて応じることはしなかった。宮崎さんは、これからあと、誰も真似ができない人生をかすかに微笑を浮かべて閉じることになった。

「75年の長い道のりを越えて」 75周年祝賀会

神戸ロータリークラブ創立75周年記念例会・祝賀会



ある集い★神戸ロータリークラブ

一九二四年（大正十三年）松方幸次郎が初代会長をつとめ、日本で三番目のロータリークラブとして東京、大阪に次いで呱呱の声をあげた由緒ある神戸ロータリークラブ（小曾根有七十五代会長）では、二月十日、貝原知事ご夫妻、笹山市長を始め内外のお客様を招き、神戸ポートピアホテルで柏井健一実行委員長のもと、五百名を超える盛大な七十五周年の記念祝賀会を開催した。

国際ロータリー第二六八〇地区（兵庫県域）ガバナリー米谷収氏（神戸南ロータリークラブ所属）からは本部から届いた創立七十五周年認定書が伝達されたあと、祇園甲部歌舞会のおめでたい「手打ち」によって開幕。

お祝いに駆けつけた小曾根実・真・啓による小曾根ファミリーの華麗なジャズ演奏によって締めくくった。

百周年にむかつて新たなスタートを切るのに際し、小曾根有会長は

「神戸ロータリークラブは、七十五周年にわたり大水害、戦争、大震災など幾多の苦難の道を越えて、世界ロータリー発展史の上で大きい位置を占めてきたが、これからも地域社会に不可欠な存在として生き続けなければならない」と挨拶した。

（実行委員会副委員長 三木重昭・井植貞雄・寺本渥）

■問い合わせ／神戸ロータリークラブ事務局

神戸市中央区港島中町6・10・1

TEL 078・306・2525

FAX 078・302・2000

<http://www.koberotary.com>

e-mail info@koberotary.com

kobe-rc@mie.biglobe.ne.jp

「奉仕と友愛」のライオンズクラブ 出会い、生きがい、助け合い



ある集い★ライオンズクラブ国際協会335-A地区

ガバナー、キャビネット、リジョンチャーマン、ゾーンチャーマン会議のメンバー（2月19日ポートピアホテル）

「奉仕と友愛」を理念に、国際平和をめざし、よりよき社会の実現を願い設立された世界最大の奉仕団体ライオンズクラブ国際協会（会員数約百四十万名）。その一翼をになう三三五-A地区（遠藤英二ガバナー、酒徳正秋キャビネット幹事）は、兵庫県の半分、東南エリアを占める神戸、尼崎、芦屋、西宮、宝塚、伊丹、川西、三田、明石、稲美、淡路島、篠山、柏原の丹波地方などの地域に設立せる百九クラブ（会員数約四千八百名）を統括している。

地区ガバナーが提唱する「創造と感動」をスローガンに、献血・献眼の推進、盲導犬・青少年育成、留学生支援、身障者・高齢者福祉、災害援助、環境保全運動などの奉仕活動を展開、地域発展のために貢献し、トルコ・台湾地震の際もいち早く援助活動を行った。

今期（一九九九年七月～二〇〇〇年六月）の最大イベント、第四十六回年次大会及びガバナー晩餐会は、四月二十三日、ポートピアホテルで二千人以上の参加を得て挙行される。

出会い、生きがい、助け合いの知性と友愛精神あふれるライオンズクラブへの入会は、男女を問わず、該当クラブ内の審査を経て招請される。

〈地区キャビネット会計 中右瑛〉

■問い合わせ／ライオンズクラブ国際協会
335-A地区キャビネット事務局
神戸市中央区港島中町6・10
神戸ポートピアホテル南館5階
TEL078・303・0303

悲願、初の日本一！



ある集い★田崎ペルーレFC

田崎真珠の女子サッカーチームが、田崎ペルーレFCです。日本のトップリーグであるLリーグに在籍し、一九八九年より、田崎真珠の社員選手が中心となり活動しています。現在は、二十一名の選手が、午前中を田崎真珠各職場で勤務、午後は吉川町にある田崎真珠研修センターを中心に練習を行い、日曜日に試合に臨むといった活動を続けています。

女子サッカー界が不況の影響を受け、大変厳しい状況下、田崎真珠はチームを存続させ、強化することにより力を傾けてきました。

その結果、先の第二十一回全日本女子サッカー選手権大会での優勝を果たすことができました。一月十六日に国立競技場で行われた決勝戦で、昨年優勝のプリマハムと対戦。延長戦を終えても決着がつかない苦しい試合でしたが、PK戦を4対2で制し、初の栄冠を手にすることができました。

これからも、女子サッカー界を代表する日本一のチームを目指して取り組んでいきます。そして、ヴィッセル神戸とともに神戸を代表するチームとして、華麗に、そして見る人にとって楽しいサッカーを展開し、元気な神戸を発信できるよう、地道な活動を続けていきたいと考えています。

〈田崎真珠株式会社 田崎ペルーレFC 部長吉田茂之 監督仲井昇〉

■田崎ペルーレFC

神戸市中央区港島中町7丁目3・1

田崎真珠株式会社

TEL 078・303・5400

FAX 078・303・5423

みんなおいでよ私学フェスタ (野田高校にて)

～いきいきと育つ子供たちを願いつづけて16年～



ある集い★兵庫私学助成をすすめる会

「ジャンボ寿司のりって、どこにあるのかな、長い寿司をみんなで巻いたら楽しいだろうなあ」と思っていた、そんなある日、垂水漁港にある神戸市漁協を訪問した。「長いのりはないけど、『須磨のり』で巻いてください！子どもたちのために応援しますヨ」と、やさしさの輪がひろがった。寿司ネタは、食遊館にある「秋吉」が心よく、引き受けてくれた。ジャンボサラダ巻き寿司の誕生。「全長十メートルものサラダ巻きは前代未聞や」「それも四本巻いて、なんと二百人分かいな」、「ゲキウマ」。観客の拍手の渦の中、黒い一本のラインは、地域や子供たち、親や教師までも巻き込んで、太い心のパイプラインとして盛り上がった。

これは、昨年十一月、神戸野田高校においての私学フェスタのこと。

この日、講堂では、高校生最後のステージと気持ちをいれてのギター演奏、生徒と教師の日々のふれあいの構成詩朗読。そして、記念講演は、妹尾河童さんの「少年日」で伝えたかったこと」と、少年日の育った時代を聞く。また教室では学校紹介写真展、運動場でのマーチングバンド演奏など、手づくりの催しに千人もが集まりました。

このグループは、教育界の発想マシンとして楽しい交流を続けている。個性あふれる教育を願いながら歩み続けて、十六年。

三月には、近畿私学の親や教師、職員が日頃の子どもへの思いを出し合い、懇親。お互いに元氣をもらおうと交流を予定。

子育ての悩み、ジャンボ巻き寿司に参加したい方はお電話ください。

〈兵庫私学助成をすすめる会世話人 嘉納千紗子〉

■兵庫私学助成をすすめる会

神戸市中央区下山手通7・11・6 協栄ビル205号

TEL078・341・3904

神戸のアーバンデザイン④

旧居留地の都市計画(2)

『神戸の建築文化を生む』



武田則明
(建築家)



明治5年の神戸外国人居留地地図

神戸旧居留地は昨年一〇〇周年記念事業を開催した。一八九九年に下田の通商条約が改正され、居留地が日本に返還された。それまでの居留地は日本の権限が入り込めない治外法権の場所であり、居留地会議は各国の代表で運営されていた。従って独自に居留地警察も存在していた。

一八七二年に作成されたJ・W・ハートの居留地の設計図を見ると居留地の東は生田川が、西には鯉川が流れ、旧西国街道沿いには北野川が掘状に流れ、南は海岸通りを挟んで海に面していた。まわりを水で囲まれ、当時は現在の北野町の木造異人館のように、ドイツ下見板にペンキ塗り、またはモルタルにペンキ塗り、日本瓦のコロナールスタイルの商館と住居、煉瓦倉庫の三点セットが一区画約一〇〇〇平方メートルの土地に建っていた。

その典型的な例、十五番館は唯一国の重要文化財に指定されている。残念ながら煉瓦倉庫は壊されたが、この建物は建設当初の姿に復元修理された。そして阪神大震災で全壊した。国の面目をかけ、免震構造の基礎と煙突をコンクリートの柱とし、屋根裏に鉄骨を架けて復元された。この復元には当初の木造をできるだけ再利用しなければならなかったために、このような大げ

さな耐震方法が取られたが、この方法が真に文化財を守ることなのか、いささか疑問を感じている。

日本が日清、日露、第一次世界大戦の戦勝国となるにつれてアジアの中で唯一の列強国の仲間入りをした。旧居留地ではロシアやドイツが撤退した後には、鈴木商店のような商社や船会社が進出してきて、コロナールスタイルの商館が次々と建て替えられていった。特に関東大震災で横浜港が壊滅的被害を受け、世界貿易の中心は神戸に移り、当時は貿易商社や船会社、ゴムや生絹の取引や検査業務が神戸に集中し、大正末から昭和の初めは神戸経済の全盛期を迎え、この時期に全盛期に建てられた近代洋風建築が神戸の建築文化を育んだ。

京都の着物文化、大阪の食文化に対し、神戸の建築文化と言われる原因はこの時代に形成された。もちろん、居留地が西洋文化の窓口であったことが大きい。神戸氣質がモダンでクラシックであると言われる所以は既に西洋では古典的様式主義を脱していたが、古典主義の様式がもっとも新しい近代日本のスタイルとして受け入れられたからであらう。

クラシックがモダンになった。

現在の旧居留地

相生町の家



橋本修英

((有)アーキテック)



暖炉のある居間と食堂



2階のパティオ



玄関ホール

スパニッシュスタイルは、大正末期から昭和初期にかけて、特に関西で人気を博した住宅様式である。

外壁全体をスペイン塗という微妙な陰影を作り出す左官工法で白やクリーム色に仕上げ、屋根に赤色の半円系のスペイン瓦やS瓦（昭和初期に日本で開発された瓦）を用いた洋風建築様式のこと、当時米国のカリフォルニア地方で流行したものが日本に伝播したものである。

なぜ関東よりも、関西、特に阪神間で人気を博したかという理由の一つは、阪神間の気候風土にあるように思われる。土の色ひとつを例にとっても、関東ローム層の黒い土の上に建つスパニッシュスタイルの住宅と、御影石の砂の混ざった阪神間の白っぽい土の上に建つスパニッシュスタイルの住宅を比較すれば、どちらが美しく見えるかはだれの目にも明らかである。

右記の理由以外にも、阪神間では、関西学院や神戸女学院の校舎をスパニッシュスタイルで設計した米国の建築家・ヴォーリズや、いち早く米国からスパニッシュスタイルを取り入れた住宅専門会社・あめりか屋などの影響もあり、昭和初期に開発

された高級住宅地に数多くのスパニッシュスタイルの住宅が建設された。

特に阪急夙川駅周辺の、相生町、雲井町、殿山町にはその数が多く、戦後も丁寧に住み継がれて、阪神間らしい住宅地の景観を形作る重要な役割を果たしていたが、今回の阪神大震災によってその大半が破壊された。この家もそうした住宅の一つであったが、震災前の町のイメージをできるだけ復元したいという建築主の強い要望で、スパニッシュスタイルで再建された。

設計者としては、この家が震災後修復されたヴォーリズ設計の松本邸などと共に、震災前の阪神間の「まちの記憶」をよみがえらせる建築の一つとして根付いてくれることを心から願っている。



西側外観

竹久夢二

「四つの恋のものがたり」

〈その十一〉 嬌々盛惑、不思議な女・お葉

夢二 嫉妬に狂う

中右 瑛

「恋」

ある時は、欲ひなりき

ある時は、悲しみなりき

いまは

十字架

（詩集「夜の露白」より）

夢二が最も愛した女性・彦乃との悲しい別離。やるせない夢二の恋の遍歴は、第四の女性・お葉へと移る。

彦乃が入院し、相思相愛の二人の仲を、彼女の父に引き裂かれ虚脱の中に沈みきっていた夢二の前に、一人の不思議な過去を持つ美しいモデルが現れたのだ。

大正八年、本郷・菊坂の菊富士ホテルにある夢二アトリエに通う美少女。夢二が師と仰ぐ藤島武二のモデルで、数え十六歳。本名・佐々木カ子ヨ。永井兼代ともいう。夢二は「お葉」と呼んだ。典型的な秋田美人。すき通る白い肌、古風なタイプのお色気、いつも泣きそうな嬌々しい女とは、こういうタイプなのだろうか。痛みをこらえたようで世紀末的なタイハイの表情。十六歳の少女とは思えない程に、不思議な魅力を発散していた。



竹久夢二画「K夫人」
「為寛国手」と、為書きがしてある。国手とは名匠、あるいは医者をあがめていう時の尊敬語で、寛先生のために描いたというもの。「K夫人」とは、寛先生の奥さまのことであろうか

三十六歳の夢二は、再び画家として、男としての情熱を蘇らせたのだ。お葉とは年齢が二十歳も大きくひらいていたのだが…。

大正八年、病床の彦乃への恋慕本『山へよする』を出版した直後の七月ごろ、モデルのお葉が通いはじめた。

お葉は、明治三十七年（一九〇四）三月一日、秋田（河辺郡和田村赤平字境田）生まれ、父は農業。しかしこれは戸籍上のことで、複雑な家族関係があり、大正五年（一九一六）十三歳のとき、歓楽街で働いていた実母と共に上京し、ひょんなことからモデルとなり、病身の母を助けて働いていた。

お葉は藤島武二のモデルであったというが、実は「責め絵」の大家で奇人ともいわれた伊藤晴雨（明治十五年—昭和三十六年）のお気に入りのモデルでもあった。

晴雨は、女体を縛り、責めあげ、痛め、虐待のSMの世界に究極の絵画美を求め、「縛られた女こそ美しい」と、苦悶の女性美を懸命に写し、恍惚の極みに達する倒錯エロスを追求する「責め絵」と呼ばれた異端の性風俗絵師である。

身もあらわに緊縛され、吊るされ、身悶えする表情、姿態を、まだ十四、五歳の若きお葉が懸命に演じた。お葉は描かれる喜び、責

められる快楽も感じたという。

モデルお葉のことを夢二は、「初めのうちはけなげで可愛い子だと思ひ、ある時から好きな娘と思ひはじめ、今はなかなか憎らしい：と思うようになった」と日記に書き残している。

「明日、また来てもいい：」

お葉は夢二に甘えるように言う。

二人はいつしか深い仲になつてしまふのだった。

その直後の大正九年一月十六日、彦乃の死が夢二の許にもたらされた。

「再び恋はすまじ」

と誓つたのだが、夢二はお葉に、自然に深く深く傾倒していったのだ

FOURLEAVES CLOVER



四葉のクローバ

セノオ楽譜「FOURLEAVES CLOVER—四つ葉のクローバ」夢二装画

つた。蠱惑で不思議な魅力を発散する美しいモデルの出現が、またも夢二をかきたてたのだった。

お葉を得て、夢二は爆発的な創作活動を示しはじめた。

夢二の傑作とうたわれている妖しい魅力の「黒猫を抱いた女―黒船屋」や、長崎旅行の想い出を描いた異国情趣溢れる「長崎十二景」、様々な女たちの姿態や表情を半身絵に集約した「女十題」などは、丁度この頃の制作である。これらの絵に登場する女性性は、初恋のひととタマキや死に別れた彦乃の幻影、あるいは嬌々蠱惑のお葉でもある。夢二は画家として一番充実した時期でもあった。

十歳のちこ（不二彦）はお葉のことを、彦乃のときと同じように「お姉ちゃん」と呼んでいた。我がままな夢二と、子供のようにダダをこねるお葉は痴話ゲンカが絶えず、お葉はよく泣き、藤島武二宅にもよく駆け込んだという。

お葉は過去に凄絶な経験をしたわりには純でやさしく、夢二にもよく甘えたという。お葉は男のなせるまま身をまかせ、自立のできない女だった！とも伝えられ、痴女のようだ、という極論もあるくらいだ。

夢二はお葉がかりだった。以前から学生たちと恋愛遊戯めいたことを、何度か耳にしていた。

「浮気しないだろうか：」

「若い恋人と：」

夢二はそんな妄想に悩まされ、嫉妬に狂つたのだった。

■中右 瑛（なかう・えい）

抽象画家 浮世絵エッセイスト

1934年生まれ、神戸市在住

【受賞歴】行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。

浮世絵集研究の功績により浮世絵内山賞受賞、半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。

現在 行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。著書に、抽象画集

「シェリト・リンド／ミラクルブルーの世界」浮世絵ミステリー巻版

「写楽は18才だった」忠臣蔵浮世絵「豆本・夢二黒猫繪」がある

ミステリーグルメ

神戸篇

ONE DAY LILY

——一夜だけ咲く命の花——

ウドノ葉生子

「奥さん、お名前を覚えていただけますか」
「あら、まあ、ごめんなさい。すっかりあわてちゃって。失礼いたしました。私、渋谷の神宮前に住む横田三千子70歳ですの。夫は俊充73歳、原宿でアパレル関係の会社を経営していますの。会社の創業はですねえ」おっと、待って。夫人の真紅の口紅が薄い唇から少々はみ出し気味であって、その口からあらゆるご自慢が乱射されるのはたまらない。
「いや、お名前だけで結構です。多分、柴田先生の事務所から資料が届いているはずですよ」



神戸ポートピアホテル

キャンピングカーの車両後部にびっしりセットされているパソコン機材の情報機器の前で熱心に作業している宮乃ゆりの顔がうなずいている。

「ところで、今晚のお泊りはどちらで」

「ええ、私どもの神戸支店の者が神戸ポートピアホテル（078・303・1111）をとっているそうです」

「ああ、そうですか。いい選択です。神戸が誇るこのホテルは海辺に建つ、東洋的なムードを持つ豪華なホテルで、フランス料理の人氣もなかなかのものだし、サービスも非常にいいので僕は好きです。ただ、今回はハコが大きすぎてちよつとガイドが難しい。この事件が終わるまで動線の少ないホテルの方がいいでしょう。（ゆりちゃん）隣のホテルオークラ神戸（078・333・0111）をとって。事務所の隣だから何かと便利だし、国内でも有数の格式あるホテルで評判も良いからご安心でしょう」

一瞬、夫人の顔に緊張感が。まずかったな。心配させちゃったか。

夜は夫人から是非にと夕食の誘いを受け、三人でホテル内の二階にある中華料理「桃花林」に向かった。

途中、あら、あら、見慣れた顔が。フロントロビーから汗をかきながら大股で急ぎ足でやってくる男性が。

三ツ星ベルト株式会社の西河紀男社長である。いつもながらこの社長は忙しい。きつと、仕事が好きで好きで仕方がないのだろう。そんな感じである。

「やあ、西河さん急いでどうしたんですか」

「あつ、ジュリアン。久しぶりやねえ…。相変わ

らず君も忙しそうやないの（さりげなく夫人に目が走る）今、仕事でね、会食があつて遅れてんねん。あつ、そうそう、ちよつと話したいことがあるんで、あとから秘書に連絡させるわ。じゃあ、失礼！」

業績のいい会社はトップが元氣だなあ。それにひきかえ、わが事務所は……あゝあ、ため息が……。おつと、東京から福の神のご入来だった。人の不幸で飯を食うのは良心が少々痛むが、困っている人を助けるのはそもそも社会的救済なんだから、なあって。

今夜も桃花林は最高の味。何と言っても代表料理は「かにの玉子入りふかのひれ」（3、4名で4800円）と「かにの手の揚げ物」（1100円）。相変わらずうまい。後味が淡白でいつもわがグルメ感性にいつそうの磨きがかかる。

老酒の勢いと夫人の気持ちを考え、レディに優しい僕は三宮駅から北上の位置にある、仲間内の榊晴夫が47年も経営している老舗バー「トムキャンティ」（078・331・2122）に案内する。



トムキャンティのカクテル

このバーは神戸を代表する、屈指のクオリティとブライド高き実績を誇るバーである。

「何してたん？ ジュリアン」

「おつ、早速のきついお言葉。今日はやんごとなき姫君をお連れしたのに」

「それは失礼しました。あのね、さつきから河合ちゃんが必要になつて捜してたよ」

「へえ、なんやろ」

神戸地下街株式会社の営業企画部長の河合修はなかなかの切れ者。日夜スーパーマン的活躍ぶりと同時に驚くほど気配りがあつて、まさに気は優しく力持ち。僕は女性には人百倍気配り満点なんだが……。彼には脱帽。

「ところで今日は何を」

「うん。まず、奥さんが食通でいらつしやるから榊君のご自慢をすすめてよ」

彼は日本バーテンダー協会の役員でこの道のオーストリティであるから、何といつてもおすすめはカクテル。

「奥さんには女性の健康を考えたザクロのエキスがたっぷり入ったフルーティなカクテル（マダム・ペルシャ）（1500円）がいいでしょうネ」
「あらつ！ 美味しそう。それをぜひいただきたいわ」

「ゆりちゃんには（ビーチ・リキュール）（1200円）がいいと思う。これは爽やかな口当たりだから」

「何でもいただきます！ あつ、でも今日は仕事ですから、涙をのんでやめます。美味しさは次回にいただきます」

「あれつ、ゆりちゃん、偉いね」と榊君。

「ほめられるほどじゃないですよ。当たり前！」



桃花林

「ありがとう、ゆりさん。心強いわ」

夫人とゆりというコミュニケーションが出来上がったようである。やれ、やれ。

僕はいつものジンベースの（ウォッカマティニー）（1200円）いつもながら、のどがゴクンと鳴る。

これがうまいんだなあーである。女には弱い僕であるが、お酒にはまあ強い方で崩れたことがないのが自慢。

一時間後、気がかりな用件が控えているため、夫人とゆりをホテルに送って事務所で軽くビールを飲みながら送られてきた資料にざっと目を通す。

インプリントされた写真は5枚あった。表参道の瀟洒な5階建てのガラス張りのファッションビル。夫俊充の柔和な顔。風貌に似合わぬ冷たいまなざしが僕を凝視している。裏参道の数寄屋造りの2階建て豪邸。祝創業50年と記されたパーティで役員社員に囲まれた俊充。家族一族郎党の写真。どれも心の動きがない。未知の人だから何の感情もないのが普通であるが、僕の勘として何か読めないものがある。なんだろう。

他に情報としてこの3年間の会社業績、会社定款、家族などの戸籍謄本などのもろもろの情報がコンピュータにあふれかえっていた。

さてと、ビルからつくり置ききのコーヒーをカップに注いでグイと一気に飲み干した。

情報分析にかかろうとした途端、頭の中がカクンときた。

「桃花林」の老酒、「トム・キャンティ」のウォッカ・マティーニ、事務所でのビール、これぐらいで僕が酔うはずがない。まして酔ったこともないのに。こりゃあ、変だ。僕らしくない。事務所に着くまでなんともなかったのだから。昨夜もよく眠ったし、睡眠不足でもない。どうしたんだろう。そうだ、コーヒーを飲んだ。コーヒーカップを必死になって凝視する。いやな予感だ。誰かこの事務所に入った者がいる。飲み口のところが気のせいかうつすらと一筋残っている。眠気が増す中、必死になってデスクの下の引き出しから、眠気を解除する錠剤をフラフラ頭でやつと探し当てる。それを2錠、大急ぎで飲み込む。よかった。間一髪、眠り姫ならぬ、眠り王子にならなくてよかった。僕を眠らせる根拠は？

そして誰が？ 何のために？



三ツ星ベルト株式会社

君にまたとない、おいしい仕事だからガンバッテやりなさい」

「ありがとうございます。先生にはいろいろすみません。頭が上がりませんよ。ところで先生、これは事件になりました。僕の事務所に誰か忍び込んだようです」

「えつ、そうなの。じゃあ、夫人にはくれぐれも気をつけてあげて」

「わかってます。アシスタントの女の子をつけてますが、もう一人男をつけます」

「そうして。着手金として100万送っておこう」

「わおー！ 助かります」

「もっと細かい資料は今、小畑英一弁護士がまとめているから。この社長というのは叩き上げの成り手なんだが、普通の成り上がりで違って美術文化にも深い教養人だね。性格は穏やかで寡黙、アクがない。こういう世界では珍しい植物的な感じが、私ともよく気が合う。目に見える敵はいないが、うーん、掘り起こせばいるかもー」

「わかりました。私的な裏関係は僕がやります」

「しつかりやつてくれよ。君も充分気をつけてね」

「はい！ ありがとうございます」

先生の言葉がいつもながら温かい。事は始まった。

(つづく)

深夜だったが、東京の柴田敏之先生の自宅に電話を入れる。

「先生、横田夫人が来られました」

「うん、うん。夫君はファッション関連の会社をやっているんだが、裏では情報関連の会社もやっていてなかなかの実力者だね。うちが顧問をやっているんだが。さて、今度の仕事はピンボーな



ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸子に「松田家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」(三水社)で人気を集める。最近作「ああ、万事業翁がお・ん・な」(文園社)では神戸花隈の花柳界の歴史を語る。ラジオ日本「ウドノヨーコのざっくばラエティ」のパーソナリティを阪神・淡路大震災まで務める。

「ものづくりに心をこめて」株式会社ボンニー 取締役 平上素行

今回は神戸のボディファッションメーカー株式会社ボンニーの平上素行さんにお話を伺いました。

からだの一部になるもの

「昭和32年の入社以来、女性に常に美しくいてもらいたいという気持ちで仕事に取り組んでいます。ランジェリーはからだに直接つけるものですが、着ている実感

が無いほど、からだの一部になるものが一番の理想ですね」

ファッションの多様化

「近年の市場環境は、消費者嗜好が多様化し、ライフスタイルの変化、ファッションの変化が激しくなっており、アウターの流れがパンツスタイルになり、丈の長いスリッパを着る人が減少しています。また、キャミソールのようにアウターとアンダーウェアの区別が無くなり、ファッション性の多様化がみられますね。特にピュアヤング層と呼ばれる20歳までの世代が流行を生み出す傾向にあり、常に市場調査を行い、お客様の声を製品に反映するように心掛けています」

これからのものづくり

「世の中は今、便利さや利潤ばかりを追求

し、何か大切なものを忘れてしまっているような気がします。どこかたがが外れて、普通のことがおどろきにされてしまっているようです。このような時代だからこそ、私たち物づくりに携わる者は当たり前のことですが、心をこめて作った製品を世の中に提供し、女性を美しく、そして華やかな社会にしていきたいと考えています」



レース使いが美しい自社製品の前で

●KFS マンスリーのお知らせ●

神戸ハイカラ文化シリーズ

講演「神戸外国人居留地と15番館」

講師 園田学園女子大学国際文化学部教授
田辺真人

日時/5月19日(金) 18:30~20:30

場所/カフェ神戸旧居留地15番館

神戸市中央区浪花町15番地

会費/3500円



佐本
産科

ママといっしょに



あかちゃん: 平井 祥世 ちゃん
(平成11年11月9日生まれ)

マ マ: ゆかり さん
「思いやりのある、やさしい子に育ってね」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
TEL: 078-575-1024 (病室TEL: 078-577-7034)
市バス上沢4 停南スグ
●駐車場完備●